

令和2年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高特別支援学校高知みかづき分校

《高知県の教育の基本理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りをもち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	生徒一人一人がその能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、意欲的、主体的に社会参加していくことができる人間を育成する。 ① 子どもたちが楽しく学べる学校 ② 保護者が安心して子どもを任せられる学校 ③ 地域にとってなくてはならない存在の学校 ④ 教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき姿の概要に	◎ ステップアップシートを最大限に活用した生徒の自立支援 ○ ステップアップシート取扱の習熟と改善、PDCAの確立 ・ 校内の学習と現場実習のPDCAの確立 ・ 生徒の社会的行動の確立 ※ SST、学級会議の開催、仲間同士の関わりの中で、人間関係の維持・形成を図る。 ○ 就労支援 ・ 作業学習の改善、職場見学、ビジネスマナー、地域の事業所での就労体験、現場実習先の拡大 ○ 地域連携 ・ 地域のイベントへの参加、地域での清掃活動、ボランティア活動の推進
《取組の方向性》	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働	児童生徒像	「明るくたくましく生き抜く力をもった生徒を育てる」 ① 自己決定できる生徒(見つけよう！なりたい自分) ② 自ら就労を目指す生徒 ③ 生活習慣が確立し社会的行動ができる生徒 ④ 地域と連携し、貢献できる生徒		

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組わらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
専門性の向上	ステップアップシート(旧キャリア評価・改善シート)の活用に向けた教師の専門性の向上と、就労による自立を目指す生徒を育成するために必要な指導力の向上に努める。	【現状】 ①ステップアップシートに記載する生徒の実態、課題、支援方法の見極め方に基づきある。 ②特別支援学校教諭免許状(知的)の保有率(64.7%:17名中11名)及び全領域(5領域)の保有率(17.6%:3名)を上げていく必要がある。 【目標】 ①生徒のワークスキル及びソーシャルスキルを伸ばすための教師の実践力の向上(ステップアップシートにおける実態分析力、目標・課題設定能力の向上) ②特別支援学校教諭免許状(知的)の保有率80%以上を達成する。加えて、全障害種(5領域)の免許状取得及び各種免許から1種免許への進歩を進める。	①-1ステップアップシートを記載する際に、教師間で生徒の実態、課題、支援方法について協議し、全教師が共通理解を図る。 ①-2生徒の課題を把握したうえで、学級と作業学習班の間で、指導の連携及び強化を図る。また、定期的に作業学習の会を開き、生徒の習熟度の確認及び共通理解を図る。 ①-3ステップアップシートを保護者及び実習先事業所との情報交換資料として活用する。 ② 免許状認定講習の計画的受講と単位取得による免許状申請を進めていく。	①-1 現場実習における振り返りや日々の学校での学習の様子について、学級担任間や作業主任間での情報・評価を共有が進んできたが、事業所の評価とは差異がある項目がある。 ①-2 生徒の習熟度に対する評価や、事業所からの指摘を受け、学級と作業班との間の連携が徐々に見られるようになってきた。 ①-3 保護者への開示に向けてエビデンスを明確にし説明に至るまでにはもう少し時間が必要。取得希望者の受講申請は全員が申し込み、全員が受講した。	①-1 事業所評価を推考し、学級や作業でできる改善点を明確化しステップアップシートに記載し、共通理解を図りつつ、グラフ化による見える化を進める。 ①-2 学級、作業班、事業所評価の連携をさらに進め、生徒の職業的自立度を高めるとともに、グラフの提示により課題理解を進める取組を始める。 ①-3 生徒担当教員を中心に学級担任全員がステップアップシートによる評価を相互に理解し根拠のある説明ができるようになる。 ② 単位満了者は年度内に免許状を申請する。	①-1 グラフ化することにより見える化が進み、生徒及び保護者への説明と理解が進んだ。 ①-2 ステップアップシートに個々の発達検査により知れた特性や個性を加えた分析ができるように工夫したことで、さらに生徒の現状把握ができやすくなった。 ①-3 実習期間だけでなく、日常の学校教育の場において、学級と作業班との課題の共有化が進み、生徒の課題理解が進んだ。このことにより、生徒自身が自立するために必要な自己課題の認識が進んだ。 ①-4 学級内での生徒課題に対する共通理解が進み、根拠ある支援と説明が可能になった。 ② 免許更新時期を再度周知し、単位満了時の取得申請を促した。	・ステップアップシートのブラッシュアップが大変良いと思います。発達検査を加味してデータに基づいて支援対応の方法を検討することが可能な形式になっていると思います。 ・ステップアップシートの活用により、十分生徒の課題理解が進んでいると感じました。特別支援への教員の資質向上は全学校に必要な資質だと思えます。特別支援学校の先生が中心となって研修を積んでいただきたいです。 ・素晴らしい指導です。 ・全教として… ① 今回の資料のみで評価を行うことは難しいです。 ② 年度末評価として、目標に対する成果をより数値的、定期的な結果を示していただく、もう少し評価しやすいのかもしれない。 ③ 例えば、PTA「であれば目標2、目標3に対してはある程度評価できるが、目標1、目標4に対しては、評価が困難です。	① ステップアップシートと発達検査の関係性をさらに高めることで、生徒の現状理解を深める。 ② ステップアップシートの活用を進めることで、学級担任と作業班、生徒本人、生徒保護者の4者間での課題の共通理解を進め、克服についての手立てを共有し、生徒の進路実現に資する。 ③ 評価の数値化をすすめて、評価しやすい基準を示す。 ④ ICT機器の活用を進め、授業における生徒の利用頻度を高め、生徒が日常においてICT機器を活用した情報収集力を高める。また、遠隔授業への教師、生徒の対応力を高める取組を行う。 ⑤ 授業で使う学習指導案、教材、資料等の共有化を進める。
キャリア教育の充実	卒業後の安定した社会生活の実現に向けて身に付けてほしい力を、ステップアップシートを用いて見える化していくことで、生徒の学習意欲の向上につなげ、職業スキル及びソーシャルスキルを高める。	【現状】 ①JSP制度を活用し、外部専門家から職業能力(知識・技能等)向上のための指導・助言を受けている。 ②実習・進路先の確保(96事業所) ③企業就労率81.3%(16名中13名) [A型含む]→87.8%(16名中14名) ④56回のアフターケアを実施してきた。(平成30年度卒業生の離職1名) ⑤良好な人間関係等の形成に課題があり、ソーシャルスキルの育成が必要である。 【目標】 ①作業学習の精度を高め、生徒の知識・技能等の能力の向上を図る。 ②ステップアップシートを活用し、生徒の職業スキル及びソーシャルスキルの育成を進める。(一就労率80%以上、問題行動等0件)	①-1JSP制度を活用し、外部専門家から、さらなる職業能力(知識・技能等)向上のための指導・助言を受ける。 ①-2ステップアップシート(評価グラフ)を活用し、課題の見える化を図ることで、家庭の協力も得ながら、生徒の課題克服に取り組む。 ①-3実習・進路先の確保を連絡部を中心に取り組む。(100事業所の確保) ②-2アフターケアを年間60回程度実施し、離職率の縮減に取り組む(離職率10%以下とする)。 ②-3月2回の学級会議を開催し、そのうちの1回の会議において、SNS、ソーシャルスキル、性に関する行動について、学級内でグループディスカッションを実施する。 ②-4ステップアップシート(ソーシャルスキル領域)を活用し、学校生活全般における生活習慣の指導の徹底に取り組む。(遅刻0%)	①-1 アビリンピックにおいて2名の生徒がビルメンテナンス部門、接客部門でそれぞれ金賞を獲得し、全国大会出場を決めた。 ①-2 根拠をもってグラフを作成することができるようになった。 ②-1 実習、進路先として103の事業所を確保できた。 ②-2 アフターケア実施件数97件。アフターケアの件数を増やしたことで、離職者の減少につながったと考えられる。 ※離職率…R元年度卒業生:0名 ・アフターケアを強化した過去2年間 : (1名)4.3% ・過去3年間: (4名)11.1% ・過去5年間: (8名)13.1% ②-3 1年生に金銭問題、男女交際問題等が散見された。生徒の相互理解を進める取組の強化が必要である。 ②-4 積極的な挨拶、丁寧な作業、持続力等に課題が見られる。	①-1 特別支援学校技能検定での1級取得者を昨年度の23名から25名へ増やす。 ①-2 校内研修の講師からの助言も取り入れ、さらに精度を高め、保護者への説明責任を果たしていく。 ②-1 進路開拓を継続していく。 ②-2 引き続きアフターケアを充実させていく。 ②-3 学級会議のほか、道徳、職業、総合的な探究(学習)の時間での関連学習を展開していく。 ②-4 領域別のデータを基に、学級及び作業班で共通理解のもと、生徒自身が自己を理解し改善できるよう指導を継続する。	①-1 技能検定での1級取得者12名。コロナウイルス感染防止対策により、一人が受検できる検定種目が一つに絞られた結果、1級取得者の総数が減少した。アビリンピック高知大会ではビルメンテナンス部門と接客部門で2名の金賞を獲得、両者とも全国大会出場を果たした。 技能検定1級取得率 喫茶サービス…62.5% 喫煙サービス…66.7% ①-2 校内研修での講師からの助言を受け、シートへの記入の仕方や課題分析がすすみ、説明責任を果たすうえでエビデンスを示されるようになった。 ②-1 進路開拓先106事業所確保。 ②-2 アフターケア100件を超え卒業生の離職率が大幅に減少した。※令和3年2月1日現在離職率19.2% ②-3 男女交際に関するトラブルや学級でのトラブルで不登校気味となる生徒が出た。家庭訪問や個別指導及び学級での全体指導を含めて取り囲み継続中。ワークスキルとソーシャルスキルに分けて分析した結果を統合し、学校教育の場において改善に向けた支援を在り方について、学級と作業班での共通理解が進み、生徒の自己課題の理解も進んだ。(卒業生企業就労率69%。一般就労率75%)	・知り合いの1期生の男子生徒がみかづき分校で学んだことの素晴らしさを伝えてくる。仕事をやめたいと言いつつも続けてるのは、彼の中に高校時代の思い出が強く残っているからだと思う。 ・アビリンピックの成果から考えると十分に評価できると思います。1年生から見通しをもった取組となっていると思います。技能検定、アビリンピック大会で結果が残せることができている。実習、進路先の確保、アフターケアがよくなっていると思います。コロナ感染の中でよく努力されています。 ・教職員の皆さまの指導に敬服いたします。	① 進路開拓を進め、利用可能事業所及び就労受け入れ事業所を増やす。目標…130件 ① アフターケアを丁寧に行い、離職率を10%以内に取り戻す努力を行う。特に新規卒業生へのフォローは支援事業所と情報共有を密に行い対応する。 ① 学級における集団作りを通して、自己理解の育成に努め、相互扶助の意識を高めることで他者理解を進めより良い人間関係形成に資する。 ② 技能検定での1級取得率を以下の通り設定し、手順に則った技術、技能の向上を図るとともに、就労に必要なスキル獲得に資する。 清掃部門…1級取得率70% 接客部門…1級取得率65% 情報部門…1級取得者2名 ② アビリンピックでの金賞受賞者1名を 目指し、社会人と技能を競うことで就労への意欲を高める。 ② ステップアップシートの活用をさらに進め、生徒の自己課題の理解と克服に向けた意欲を高める取組を進めるとともに、仲間との協働・協力を進め生徒の社会性と人間関係形成力の育成に努める。
学校設定項目	地域における清掃活動やボランティア活動等の貢献活動を通して、生徒の自己肯定感を高めるとともに、働くことに対する意欲を育てていく。	【現状】 ①商店街での清掃活動は、週当たり2回実施している。 ②みかづき祭りに参加している。(昨年度)生徒15名、保護者15名 ③よさこい祭り(清掃、給水ボランティア活動)(昨年度)生徒35名 【目標】 ①校外での作業活動(清掃)の推進 ②地域社会への貢献(地域のイベント参加率の向上)に努める。 ※「働く」ことの意義理解につなげる。	①生徒集会、PTA総会などの年度初めの行事において、地域社会への貢献活動の実施及び参加の要請を行う。 ①地域での清掃活動を週当たり2回実施することで、みかづき分校の取組をアピールし、障害者に対する理解・啓発に努める。 ②生徒会に地域での貢献活動について協力を呼びかけ、生徒たちによる協議のもと、生徒の主体的な貢献活動を形成していく。	① PTA総会が開催できず、みかづき分校の地域への貢献について新入生保護者にアピールする機会がなかった。 ② 生徒による地域への活動は徐々に場面を広げ、現在では地域での活動を全面的に再開している。 【変更】 11月に予定されている万々商店街が主催のハロウィンフェスには、実施されれば参加する。地域に出かけての清掃作業や、鏡村の店への卵袋納品や体験学習は継続して実施する。	①地域での清掃活動、鏡村への卵袋納品は継続する。新型コロナウイルス感染症が小規模状態となっている時期を見て、生徒同士が関わりを深める活動を行い、生徒同士の結びつきをより深めることで集団作りに資する。 ②万々商店街主催のハロウィンフェスが開催されれば参加する。	① 地域で活動が大幅に減少し、特に町内会連合会や商店街とともに実施してきた祭りへの参加すべてがキャンセルとなったが、独自に計画し実践した城西公園のボランティア清掃や商店街、駅舎の清掃は継続して取り組み、次年度につながる取組を進めた。	・長年にわたり清掃活動ありがとうございます。商店街活動、イベントなどこれからも参加をよろしくお願い致します。商店街の組合員、感謝します。 ・コロナ禍で活動ができなかったのでも、不可の評価はしないです。 その中で、講演、駅、近辺の清掃をしているのでも感謝いたします。 地域の清掃、ありがとうございます。地域イベントのスタッフとして、一緒にできるのではないですか、普段の活動ができていたら「A」ですが、今年はコロナで活動できなかったという点で「B」とします。 ・仕方ないです。	① 地域社会への貢献を進めるため、年度当初より、地域の団体等と共同で進める行事への参加を要請するとともに、作業学習等を通じた地域とのつながりを強める。 【目標】 みかづき祭り、よさこい祭り給水ボランティア…25名以上 ハロウィンフェス…15名以上 ② 生徒会・地域での活動の継続
働き方改革	健康で活性化された職場づくりに努める。	【現状】 ①分掌業務の平準化と引継ぎによる役割の分散が十分ではない。 ②指導案・教材等の共有化が未整備 ③時間外勤務時間の平均(20.1時間) 【目標】 ①分掌業務の平準化と役割の公平化を促進する。 ②教科指導に関する情報の共有化を図るために、学習指導案・教材の電子データ化を進める。 ③時間外勤務時間の削減を図り、月当たりの時間外勤務時間を40時間以下とする。	①③分掌業務の平準化を分掌部長と管理職が連携して進め、時間外勤務時間の削減を図る。 ②共有フォルダ内に教材フォルダを作成し、学習指導案及び教材のデータを保存していくことで、全教職員の共有財産化を進め、業務の効率化を図る。 ③長期休業中に学校閉庁日(一斉休業日)を設定し、リフレッシュのための休暇の取得を促進する。	①引継ぎに時間を要する分掌に増員を図り、引継ぎと業務の平準化を兼ねた取組を進めることができる。 ②教材フォルダの活用はまだ十分ではない。教材データの蓄積及び利用促進を図っていく必要がある。 ③長期休業中の学校閉庁日の取組や分掌業務の平準化を進めてきたが、6月に45時間以上の時間外勤務者が2名出た。	①引き続き分掌業務の引継ぎ、業務の平準化を進める。 ②指導案や教材のほか、スライドやICTを活用した教材を集積する必要がある。 ③年度末の業務の繁忙期に向け、合理的な業務の推進意識をさらに高められるよう、業務の分散・協力に向け分掌部長等への指導や声掛けを行っていく。	①分掌業務の平準化と役割分担は一定進んだが、分掌部長の引継ぎも兼ねた業務内容の申し送りも進める必要がある。 ②指導案や教材の共有化も一定進んだが、さらなる周知と共有化を進める必要がある。 ③年度末の報告及び新年度に向けた計画等、計画的に進める声掛けと、業務の効率化を呼び掛けている。	年度末評価に「一定進んだ」との表現があるので、完全な成果がなかったのかもしれないと思いましたが、 ・時間外勤務の目標40時間以下が達成できたことは評価できます。 ・働き方大変ですがこれからも努力していきます。	① 各分掌にサブチーフを置き、人材育成に努める。 ① 各分掌内での業務の担当者を、すべて複数人を置き、一人当たりの業務の低減化を実施する。 ① 教育相談、進路担当は特に後継者の育成が急務の課題であるので、全教職員の理解を踏まえて後継者の育成に協力する。 ② 学習指導案、教材等の共有化をさらに進め、授業でのICT機器の活用を進める。 ③ 効率的な業務に努め、月当たりの時間外労働時間を40時間までとする。